

奈良学園中学校 環境研修 学習指導案（略案）

1 日時等

- ・ 日 時 令和7年9月20日（土） 第1限～第4限
- ・ 対 象 中学校第1学年 157名
- ・ 場 所 奈良学園中学校・高等学校 大教室・里山
- ・ 備 考 希望保護者26組42名の参観

2 単元名

中学1年生第1回環境研修 「学ぼう 発見しよう 里山づくり」

3 単元の目標

本校の里山をフィールドとし、生態系の再生活動に主体的に取り組む中で、生物多様性の保全に必要な知識と技術を身につけることを目指す。

4 今回の時案

(1) 今回の環境研修の目標

- ・ 生物多様性の意味と、その重要性について理解する。
- ・ 生物多様性を守る上で、里山が果たす役割を理解する。
- ・ 里山での活動の目的を理解し、生物多様性の保全に向けた基本的な技術を身につける。

(2) 今回の環境研修の展開

時間	○生徒の学習活動	○指導者の動き
導入 (5分)	○里山のある環境に学ぶことの意義を実感し、本校で継続的に環境教育が行われていることを理解する。	○本校教員が本活動の趣旨を説明し、以下の内容を伝える。 ・ 本校では、里山を活用した環境教育活動が中高6年間を通して継続的に行われること ・ その活動を通じて、生徒が主体的に自然と関わり、環境への意識を高めていくことが期待されていること
展開1 (55分)	・ 養父志乃夫先生(和歌山大学元教授・本校元SSH運営指導委員)の講義 ・ 本校教員から「これからの活動の説明」(大教室) ○養父先生の講義を受講する中で、次の内容について理解を深める。 ・ 発問に答えながら里山が自分たちの生活とどのように関わっているかを考える。 ・ 現代的な生活と自然環境の破壊との間にトレードオフの関係にあることを理解する。 ・ 自然環境を単に「手つかず」の状態を守るだけでは、生物多様性の保全にはつながらないことに気づく。	○以下のトピックについて、図や画像を用いながら講義を行い、生徒の理解を促す。 ・ 農地の減少に伴う生態系の破壊 ・ 生物の絶滅とその影響 ・ 化石燃料の使用による気候変動の進行 ・ 里山の萌芽更新と、それに関連する再生可能エネルギーの活用 ・ 環境の適切な利用と生物多様性の維持の関係性 ○本日の環境保全実習の目的を説明し、生徒が意義をもって活動に取り組めるようにする。 ・ 生物の種類や生態について理解を深める。 ・ 生物を守るために里山を保全する必要性を理解する。 ・ 保全活動に必要な基本的な技術や方法を学ぶ。
展開2 (90分)	・ 環境保全実習（里山内） ○各自の担当場所に分かれて実習を行い、里山で安全かつ効果的に活動するための基礎を身につける。	○クラスごとに4つの班に分けて里山で実習させる。担当者はケガや熱中症の予防に配慮する。 ・「里山の営み」シードバンクと雑木伐採

	・危険生物の存在を認識し、安全に配慮して行動できるようにする。 ・里山での活動に適した服装の必要性を理解し、適切な装備で作業に臨む。 ・のこぎりやシャベルなど、使用する道具の正しい扱い方を習得する。	・「棚田と生き物」棚田周辺の生物多様性 ・「環境修復」ホタルが住める川の再生 ・「ため池と水の営み」水路修復
まとめ (30分)	・高校生T Aによる「まとめの時間」(各H R教室)	
	○本時の学習内容を振り返り、学んだことや感じたことを整理する。 ・ワークシートを用いて、本日の活動内容と自分の気づき・学びをまとめる。 ・入学後初めての本格的な里山活動を通して得た経験を記録し、今後の環境教育への関心や意欲につなげる。	○高校生T Aは、生徒に「まとめの作文」を作成させる。 ・作文が進まない生徒には声かけを行い、振り返りを促す。 ・自身の経験やエピソードを交えながら、里山のある学校で学ぶことの意義や魅力を伝えることで、生徒の理解と関心を深める。